

# (公社)生体制御学会

## 平成 29 年度事業報告

### A. 会務を円滑に運営するために次の会議を行った

#### 1. 総会

平成 29 年 6 月 4 日 (日) 午前 9 時 30 分～10 時 20 分  
(名古屋市立大医学部研究棟 11 階 小講義室)

#### 2. 理事会

平成 29 年 4 月 8 日 (土) 午後 5 時～午後 7 時 (東洋医学研究所®)

平成 29 年 6 月 4 日 (日) 午後 5 時～午後 7 時 (東洋医学研究所®)

平成 29 年 12 月 9 日 (土) 午後 5 時～午後 7 時 (東洋医学研究所®)

平成 30 年 3 月 4 日 (日) 午後 5 時～午後 7 時 (東洋医学研究所®)

#### 3. 評議員会

平成 29 年 11 月 26 日 (日) 午後 4 時～午後 7 時 (ルブラ王山)

平成 30 年 3 月 11 日 (日) 午前 10 時～正午  
(名古屋市立大学医学部本部棟 2F 第 1 会議室)

#### 4. 管理部門会議

平成 30 年 2 月 3 日 (土) 午後 5 時～午後 7 時 (東洋医学研究所®)

#### 5. 事業部門会議

平成 30 年 2 月 10 日 (土) 午後 5 時～午後 7 時 (東洋医学研究所®)

### B. 目的を遂行するために次の事業を行った

#### 1. 研究活動

##### イ. 各研究班活動

各研究班が月 1 回研究日を設けて研究活動を行った

- ①疼痛疾患班
- ②不定愁訴班
- ③生活習慣病班
- ④情報・評価班
- ⑤生体防御免疫疾患班
- ⑥古典文献(鍼灸)研究班

##### ロ. 研究班班長会

日時：毎月第 3 木曜日 午後 8 時 30 分～午後 10 時

場所：東洋医学研究所®

内容：各班の研究活動報告及び計画

情報交換

研究における問題点の検討

研究班長勉強会

## 実施日

- 平成 29 年 6 月 15 日 (木) 研究班長会 各研究班活動報告  
7 月 20 日 (木) 研究班長会 各研究班活動報告  
8 月 3 日 (木) 第 35 回(公社)生体制御学会学術集会発表練習  
8 月 17 日 (木) 第 35 回(公社)生体制御学会学術集会発表練習  
9 月 21 日 (木) 研究班長会 各研究班活動報告  
10 月 19 日 (木) 研究班長会 各研究班活動報告  
11 月 16 日 (木) 研究班長会 各研究班活動報告  
平成 30 年 2 月 15 日 (木) 研究班長会 各研究班研究計画について  
3 月 15 日 (木) 研究班長会 各研究班研究計画について

## 【原著論文】

- ・角村幸治、石神龍代、平松英敬、中村覚、各務壽紀、赤石望、高山加奈子、渡辺かおり、黒野保三：気象の変化と不定愁訴について, 全日本鍼灸学会雑誌 67(3). 307-315. 2017

## 2. 第 35 回(公社)生体制御学会学術集会の開催

日 時：平成 29 年 8 月 27 日 (日) 午前 9 時～午後 4 時

場 所：名古屋市立大学医学部総合情報センター川澄分館さくら講堂 (図書館 3 階)

### 内 容

教育講演 市民公開講座 (公社)全日本鍼灸学会認定指定研修 C 講座

「市民のための運動生理学」

講師：中京大学スポーツ科学部スポーツ健康科学科 教授 松本孝朗

司会：愛知医科大学医学部生理学講座 教授 岩瀬 敏

特別講演 市民公開講座 (公社)全日本鍼灸学会認定指定研修 C 講座

「眠りと覚醒をあやつる脳のしくみ」

講師：筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構長 櫻井 武

司会：名古屋市立大学大学院医学研究科医学・医療教育学分野教授

第 35 回公益社団法人生体制御学会 学術集会長 早野順一郎

### 一般口演

#### 1. 鍼治療を併用した胚盤胞移植の検討

明生鍼灸院 俵 IVF クリニック 桐脇典子

#### 2. 鍼治療 (筋膜上圧刺激) による末梢性顔面神経麻痺症状の改善効果

—柳原法 (40 点法) を用いた症例集積—

(公社)生体制御学会研究部 生体防御免疫疾患班 井島晴彦

#### 3. 末梢性顔面神経麻痺に対する鍼治療の 1 症例

—発症後 3 年半経過した後に鍼治療を開始した Bell 麻痺の症例—

東洋医学研究所®グループ井島鍼灸院 西田 修

#### 4. 両側交代性顔面神経麻痺に対する鍼治療の症例検討

東洋医学研究所®グループ二葉鍼灸院 山田 篤

#### 5. 鍼刺激の自律神経に対する持続効果

名古屋市立大学大学院医学研究科医学・医療教育学分野 山本健人

6. 会話エージェントにおけるロボット使用の有効性の考察

名古屋市立大学大学院医学研究科医学・医療教育学分野 小笠原宏樹

7. 視覚弁別課題により誘発された皮膚交感神経活動の比較

愛知医科大学医学部生理学講座 桑原裕子

8. ベッド上と座位で排便想定怒責負荷時の心血管系及び自律神経活動の変化

朝日大学保健医療学部看護学科 神谷美香

9. 長周期の呼吸法を継続的に行うことによるリラクゼーション効果

朝日大学保健医療学部看護学科 岩瀬千尋

3. 学術研修会の開催（資料 P8～14）

4. 生涯教育制度・愛知県鍼灸生涯研修会の実施（資料 P15）

5. (公社)全日本鍼灸学会認定指定研修 C 講座受講者名簿（資料 P16～18）

6. 学会誌の発行および準備

イ. 生体制御学会誌の発行

生体制御学会誌第 32 号を平成 29 年 6 月に発行した

ロ. 生体制御学会誌の発行準備

生体制御学会誌第 33 号の編集準備作業を行った

7. 広報活動

定例講習会・愛知県鍼灸生涯研修会の開催予定を掲載依頼した

第 285 回から第 289 回までの定例講習会・愛知県鍼灸生涯研修会の予定を医道の日本社編集部、医学書院 WEB 版医学界新聞に連絡した

8. (公社)生体制御学会活動内容の整理保管した

イ. (公社)生体制御学会会員の業績を整理保管した

ロ. 第 35 回(公社)生体制御学会学術集会をアルバムに整理保管した

9. 会員相互の連絡と組織の拡充（資料 P19）

イ. 組織部会を 2 回開催し、組織部の活動について協議した

ロ. 会員の拡充に努力し、学会の啓発を図った

ハ. 当学会事務所との連絡を密にして、会員の入会と退会及び住所変更等の把握に努力した

10. 学術集会において鍼灸学校の学生に対しアンケートを実施した

11. 定例講習会においてアンケートを実施した

12. 治療院見学を実施した

13. 女子会員の交流を推進し、女子部の拡充を図った

イ. 女子部懇親会を開催し、今後の女子部の活動について話し合うとともに親睦を深めた

ロ. 愛知県鍼灸マッサージ師会の女子会員に、定例講習会での鍼灸学校学生向け企画の案内を発送した

14. 学会啓発活動

平成 30 年 2 月 23 日（金）

中和医療専門学校と名古屋医健スポーツ専門学校の卒業生に対し、(公社)生体制御学会の紹介資料並びに入会案内を持参し配布して頂いた

平成 30 年 3 月 1 日（木）

学校法人専門学校名古屋鍼灸学校の卒業生並びに在校生に対し、(公社)生体制御学会で行っている研究に関する講演と、当学会の紹介資料を配布して入会案内を行った